

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 70

学校名・団体名	名古屋市立高蔵小学校
HPアドレス	http://www.takakura-e.nagoya-c.ed.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	高蔵っ子のことばの力を高める国語科の授業づくり
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>高蔵っ子が、身に付けた豊かなことばの力、ものの見方、考え方、自分の思いを、他の文章での読みにも関わらせ、さらには実社会や未来の生き方を見つめ、考えを広げることにつなげる力を育てる。</p>	

高蔵っ子のことばの力を高める国語科の授業づくり

I 研究の目的

高蔵っ子が、身に付けた豊かなことばの力、ものの見方、考え方、自分の思いを、他の文章での読みにも関わらせ、さらには実社会や未来の生き方を見つめ、考えを広げることにつながる力を育てることを目的として、研究に取り組んだ。以下に、9月から11月に掛けて行われた研究授業の中から、第3学年の様子を報告する。

II 第3学年の研究の様子(9月~11月)

1 単元について

本単元「友達に伝えよう『わすれられないおくりもの』-『おくりもの』に込められた思いから、人物の気持ちの変化を想像しよう-」では、身に付けさせたい資質・能力を、「登場人物の気持ちについて、叙述を基にとらえる力」や「登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて読む力」と捉え、単元構想を行った。また、その力を生かして自分の生活や身近な人たちとの関わりを振り返り、文章にまとめる活動を通して「人には自分を支える『わすれられないおくりもの』がある」ことに気付かせ、実社会や未来への生き方につなげてほしいと考えた。

本教材「わすれられないおくりもの」では、あなぐまの死とあなぐまが残してくれたおくりものを通して、その「おくりもの」に込められた思いについて考えることで、相手の行動や気持ちについて振り返ったり、自分に置き換えて考えたりすることができる。さらに、多くの物に囲まれた現代を生きる児童にとって、形には残らない「心」に残るおくりものと、あなぐまと動物たちとの絆を描いた本作品を学習することは大変意義深いと考える。

2 研究主題に迫るために

(1) 課題設定の工夫と「チューリップダイアリー」の活用

主体的・循環的で深い学びのある授業にするために、「あなぐまからのおくりものの意味は何か」、これまでの友達との関わりを振り返り、「自分にとってのおくりものは何か」という「おくりものの意味を問う」学習課題を提示し、単元を通して自分の考えを形成させることで主体的・循環的に課題を解決していく学習課題を構想する。また、常時活動として、毎日の出来事や学級の仲間たちとの関わりを記録する「チューリップダイアリー」に取り組む。日々の生活の中で、友達との関わりを通してできるようになったこと、好きになったことなどを記録に残しておく。このように、自分を支える周りの存在や、その人が自分のことを思う気持ちを考えさせる経験を、本単元の学習につなげていく。

(2) 考えをつなぐ学習展開の工夫

対話的・協働的で深い学びのある授業にするために、物語教材「わすれられないおくりもの」を読んで考えたことや分かったことなどを、友達と対話する学習を毎時間の授業の中で行う。友達の考えを共感的に聞いたり、自分の考えと比べて質問したりすることで、読みを広げたり、深めたりすることができるようにする。ペアやグループで友達と対話したことを基に、学級全体で考えをつなぐ話し合い活動を行う。全体での話し合いでは、児童が相互指名で考えをつないだり、教師が児童の考えを適切に意味付けたり、価値付けたりすることによって、考えの根拠がより明確になることが期待できる。

考えをつなぐ場面では、常掲している「聞き方名人」「話し方名人」「ハンドサイン」に加えて、「思考のことば」等、当該学年で身に付けさせたい基本的な技能や学習用語を使い、論理的に考えをつなぐ話し合いができるようにする。

3 実践の内容

(1) 第1次(第1時・第2時):教材文を読み、感想を書いたり、あらすじをまとめたりする。

① 第1時「設定を確認する」「感想を書く」

導入場面で大きなプレゼントを示し、「この中に先生にとっての忘れられないおくりものが入っている」ことを知らせ、「おくりものが何か」という課題を意識して学習に取り組めるように工夫した。その後、学習シートを使い「設定(時・人・場)」を確かめたり、興味のある場面や人物についての感想を書かせたりした。

② 第2時「あらすじをまとめる」

登場人物の心情描写や情景描写からキーワードを捉えてあらすじをまとめさせた。

(2) 第2次(第3時~第7時):あなぐまと森の動物たちとの関わりを読み、あなぐまの人物像を読み取る。あなぐまが動物たちに残した「おくりもの」の内容や意味を読み取り、もぐらの心情の変化を考える。

① 第3時「あなぐまの人物像を読む」

あなぐまと森の動物たちとの関わりを読み、あなぐまの人物像を読み取らせた。死ぬことを恐れていないこと、体はなくなっても心は残ることなど、あなぐまの死に対する考えと、あなぐまが森の動物たちにとって頼りになる大きな存在であったことを読み取らせた。

② 第4時「あなぐまの死を読む」

あなぐまの見た夢と手紙の内容から、あなぐまが死を迎えたことを読み取らせた。「長いトンネル」が生死の境界になっていることや、「体が軽くなった」などの描写から、「死」が象徴的に表現されていることを読み取らせた。

③ 第5時「おくりものについて読む」

あなぐまが森の動物たちに残した「おくりもの」を具体的に読み取らせた。あなぐまが「優しく」「最後まで」「できるまで」教えてくれたことが、動物たちの心に深く残り、あなぐまがいなくなった後でも自分を支えるものになっていることを読み取らせた。

④ 第6時「もぐらの心情の変化を読む」

おくりものに共通するあなぐまの思いを考えさせた。「しょうらい役に立つようにという思いがあった」「あなぐまがいなくなっても、心で生きているという思い」「おたがいに助け合うことができるようになってほしい」などの考えが出され、動物たちを思う気持ちや、あなぐまからのおくりものは、今後自分を支える知恵や工夫、生きていく上で必要な豊かさであることを読み取らせた。その後、もぐらの心情の変化の理由をまとめさせた。「あなぐまが残してくれた心の支えとなるものに気付いた」「あなぐまの思い出によって、悲しみが消えた」などの考えが出され、動物たちがあなぐまの死を乗り越え、前向きに生きていく思いへの変化を読み取ることができた。

⑤ 第7時「チューリップメモを書く（あなぐま&もぐら）」

もぐらとあなぐまとの関係を、「出来事」「相手の思い」「自分の思い」に分け、チューリップメモにまとめさせた。もぐらにとって、あなぐまに切り紙を教えてもらったことが「わすれられないおくりもの」だと気付いたことで、あなぐまの死を乗り越え、教えてもらったことを受け継いでいこうという気持ちになったことをまとめることができた。

(3) 第3次（第8時～第12時）チューリップメモを基に、自分自身にとっての「わすれられないおくりもの」をテーマに文章を書く。

① 第8時「チューリップダイアリーを振り返る」

書きためたチューリップダイアリーを振り返り、友達との関わりの中で、自分にとっての「わすれられないおくりもの」となる出来事を見付けさせた。選んだ出来事は、チューリップメモの花の部分に書かせた。

② 第9時「チューリップメモを書く（自分）」

チューリップメモの葉（気持ち）と植木鉢（相手へのメッセージ）の部分を書かせ、自分にとってのおくりものの意味を考えさせたり、相手への思いをはっきりさせたりした。この学習は、自分にとってのおくりものを文章にまとめる「書くこと」の「取材」にあたる。主教材と同じ考え方で、チューリップメモに書いたことで、読むことの学習で学んだことを生かし、自分の考えをもつことができた。

③ 第10・11時「作文を書く」

チューリップメモを構成メモとして、「はじめ」「なか」（花と葉）「おわり（植木鉢）」の構成で書かせた。

④ 第12時「推敲する」

作文を読み合い、チューリップメモに書いたことが作文の中に書かれているかを確認させた。

(4) 第4次（第13時）第3次で書いた文章を読み合い、感想を書く。

① 第13時「作文を読み合い、感想を書く」

書き上げた作文を読み合い、感想を書いて伝えた。

4 成果と課題（○成果、●課題）

○ 「おくりものの意味を問う」課題を提示したことで、行動の裏にある思いを想像することができ、「命はなくなっても心は残り、受け継がれていく」ことを読み取ることができた。

● 自分に対する友達の思いを考えさせた後に、ペアでの交流活動を取り入れたが、自分が経験していないことに対してコメントをするのは難しく、戸惑う様子が見られた。対話をどこでどのように取り入れるのか、考える必要がある。

III 研究のまとめ

どの学年においても、第2次と第3次のつながりがはっきりするように、身に付けさせたい資質・能力とともに、この教材だからこそできる学習活動を再考し、単元構想を行う必要がある。今年度の研究で学んだことを生かし、今後も引き続き、高蔵っ子が、身に付けた豊かなことばの力、ものの見方、考え方、自分の思いを、他の文章での読みにも関わらせ、さらには実社会や未来の生き方を見つめ、考えを広げることにつながる力を育てていきたい。

